教育方針（3つのポリシー）

1．入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

京都ノートルダム女子大学大学院は、「『徳と知（Virtus et Scientia)』で示されるカトリックの建学の精神に基づき、学部教育を基礎として、学術的な理論及び応用に関する教育研究」を目的としています。

「広い視野」と「高度の専門性」の修得を目指し、自ら問題を見いだし解決していく、自律した学生の入学を期待しています。

【人間文化研究科 応用英語専攻】

〔学ぶ内容および特色〕

人間文化研究科応用英語専攻は、「英語圏文学・文化」、「英語教育」、「言語学（英語学）・コミュニケーション学」いずれかの領域における専門的知識を基盤とし、それらの専門知識を国際社会におけるそれぞれの専門領域あるいは一般領域において活かすことのできる高い専門性を有した人材の育成を目的としています。この目的を遂行するにあたり、以下のような学生の入学を期待します。

〔入学を期待する学生像〕

1．学術的な研究活動を通じて、国際社会で通用する英語の知識、英語運用能力を身につけたいと考える人
2．現職の英語教員、または英語教員を目指す人で、教員としての専門性を高め、同時に英語教育の様々な問題に関する研究能力を身につけたいと考える人
3．英語圏の文学・文化に深い関心を持ち、学術的な研究を通してその知識と理解を深め、また文学・文化を自ら批判・解釈できる力を身につけたいと考える人
4．言語としての英語のしくみ、およびその運用のメカニズムに深い関心を持ち、これを理論的・実証的に分析する能力を身につけたいと考える人
5．将来的に国内外の大学院への進学を目指し、専門的な研究に携わりたいと考える人
6．社会人で、本専攻の学問領域に関心を持ち、さらに造詣を深めたいと考える人

【人間文化研究科 人間文化専攻】

〔学ぶ内容および特色〕

人間文化研究科人間文化専攻では、複雑化する現代社会において展開される文化的な営みを、総合的で相対的な視点をもって研究していきます。このように、研究の対象とする文化の所産を理論的・実践的に探究し、またそれらの「文化資源」を後世に継承していくことの意義や方法を研究し、さらにその成果を社会に還元しようとする学生の入学を期待します。

〔入学を期待する学生像〕

1．文化をめぐるさまざまな価値観や、文化の持つ多様性と相対性など、世界に実在する「多文化」を深く学び、研究したい人。
2．人間の生み出した文化の所産を他者に伝達する能力を身につけ、それを社会に広く発信する諸活動に関心を持ち、社会の発展に役立てようと考える人。
3．将来、専修免許を持った国語科教員になりたい人、国際機関や文化・教育機関、出版関連企業や図書館の仕事に就きたい人。

【心理学研究科 臨床心理学専攻】

〔学ぶ内容および特色〕

心理学研究科臨床心理学専攻は、現代社会における心理的諸問題について、理論的かつ実践的に理解し、カウンセリング、心理療法に関する基礎的な知識や理論を基に、対人関係の技術を身につけることを目的としている。臨床心理の有資格者として、心の問題を生じた人やその関係者を心理的に支援できる人材を養成することを目標としている。具体的には、以下のような学生の入学を期待します。

〔入学を期待する学生像〕

1．悩みや苦しみを抱えた人々への関心と配慮を有し、相手の立場に立って支援の手をさしのべたいと考えている人。すなわち、人へのあたたかいまなざしと高い倫理観をもち、どのような状況にある人にも慈しみ深く、一人の人間としてその尊厳を守り、尊敬し、寛容の心を失わず接することが出来るよう自らの成長を望み、同時に、自分の弱さや痛みにも目を背けず向き合うことができる力を持っている人。
2．臨床心理学に関する高度な専門知識と理論・技術を学び、豊富な実習経験を通して確かな対人援助の能力を身につけ、人々の幸福と社会の安寧に貢献したいと考えている人。
3．心理療法に関する特定の理論や技法に偏らず、幅広い知識と技術を身につけ、将来の専門性を選択していく上での臨床心理学的基盤を築き、バランスのとれた心理臨床家を目指したいと考えている人。
4．科学的研究法に基づき臨床心理学的な理論や技術を実証的に解明したい人。また、修士論文の研究を通して、客観的な分析力と論理的思考を身につけ、臨床心理実践にも援用したいと考えている人。

【心理学研究科 心理学専攻】

〔学ぶ内容および特色〕

心理学研究科心理学専攻は、高度な科学的心理学に基づく研究能力を備え、社会が心理学に求めるさまざまなニーズに応えられる応用力を持った専門家の養成を目標としています。具体的には、以下のような学生の入学を期待します。

〔入学を期待する学生像〕

1．心理学研究の基礎的知識と技能を有し、現代社会の抱える諸問題に対して心理学的視点から問題意識と課題を設定できる人。
2．社会の要請に応えようとする使命感とともに豊かな人間性と柔軟な心をもち、誠実かつ謙虚に研究に向き合える人。
3．独創的研究に取り組む意欲とひたむきな探究心そして倫理観を兼ね備え、研究の過程で直面する困難に耐え得る情熱を有する人。
4．外国語論文を理解し、国際的視野を持って研究を展開しようとする人。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

【人間文化研究科 応用英語専攻】

人間文化研究科応用英語専攻では、「グローバル化社会で求められる高い英語力と高度な専門性を要する職業に就くために必要な能力の育成」という教育目標の実現のため、「英語圏文学・文化」、「英語教育」、「言語学（英語学）・コミュニケーション学」の３領域を設置し、以下のようなカリキュラムを編成して教育を行っています。

1．効果的に専門性の習得を実現するため、「基礎科目」「専門科目」「演習科目」「研究指導科目」を設置しています。
2．「基礎科目」では、(a)各領域で必須となる研究方法論の習得と、(b)国際社会で自身の専門性を発揮するために必要となる英語運用能力の習得を行います。
3．「専門科目」では、「英語圏文学・文化」、「英語教育」、「言語学（英語学）・コミュニケーション学」それぞれの領域における高度な専門性を涵養し、また、研究者・教育者・実践家として必要な技術の習得を行うための科目を配置しています。

4.「演習科目」では、修士論文執筆のための個別指導を行い、個別の研究課題に基づいた研究方法論と専門知識の習得を重点的に行います。
5.「研究指導科目」では、研究指導教員が修士論文執筆を個人指導します。同時に、研究指導補助教員が協力して複数指導体制を構築し、専攻内で研究発表や討議を行うことで、修士論文の執筆と口頭試問での答弁、さらには学会等での研究発表の技術を養います。

また、応用英語専攻では、中学校・高等学校の英語科専修免許の取得が可能です。

【人間文化研究科 人間文化専攻】

人間文化研究科人間文化専攻では、文学、芸術、生活などの文化事象を研究対象とし、広く文化の特質を捉えることを目的として、次のようなカリキュラムにより教育を提供します。
1．一年次に文化研究の基礎を学ぶために「文化学研究方法論」「文化学研究実践論」を設置しています。
2．専門科目群として、表象文化について高度な専門性を追求する「ヨーロッパ芸術文化特論」「キリスト教文化特論」「女性健康文化特論」などの特論科目を配置しています。また主体的な学びを深めるために「日本文学演習」「読書支援プログラム演習」「日中言語交流史演習」などの演習科目を配置しています。
3．研究指導計画にもとづき、「特別研究」により修士論文を実際に作成していくための論文指導を行います。入学時に主指導教員１名・副指導教員複数名を決定し、２年間を通して専門性を高める細やかな指導を行っていきます。さらに国際機関や図書館、博物館の「インターンシップ」などの科目も配置して、実践的な経験を積む機会を提供しています。
4．希望者には中学校・高等学校の国語科専修免許が取得できるカリキュラムも用意しています。

【心理学研究科 臨床心理学専攻】

心理学研究科臨床心理学専攻は、科学的方法に基づく高度な心理学研究と同時に、心理臨床的な問題を抱える人々への対人援助を実践できる人材の養成という教育目標を実現するために次のようなカリキュラムを編成し、実践的教育を行っています。

1．公認心理師の養成カリキュラムを備えた大学院として、また、臨床心理士資格を認定する「日本臨床心理士資格認定協会」の第一種指定の大学院として、バランスのとれた優秀な心理学的支援の専門家を養成するために、各指定のカリキュラムを網羅し、さらに本専攻独自の科目を豊富に揃えている。
2.「基礎科目」「専門科目」「関連科目」「演習科目」を設置し、これらを通して、本学の学習に必要な科学的視点の養成と臨床心理学的素養および技術の修得を可能にする。
3.「基礎科目」では、統計学、研究法などに関わる科目で科学的心理学の研究方法を身につけ、修士論文作成のための基礎となる心理学の研究方法を学ぶ。
4.「専門科目」では、臨床心理学に必要な理論と技術を体系的かつ実践的に習得し、専任教員によるスーパービジョン、学内および学外施設での豊富な実践体験を通して、カウンセリングや心理療法の原理や技法を身につける。
5.「関連科目」では、臨床心理学に関連の深い近接学問領域を学ぶことにより、人間という存在をより広い視野から捉え、多面的な理解を深めて、研究能力および実践能力の向上を図る。
6.「演習科目」では、個別指導および専攻内での発表による集団指導体制によって、修士論文作成に向けた重点的な指導を行う。

【心理学研究科 心理学専攻】

心理学研究科心理学専攻は、高度な学問的水準に達する自立した心理学研究者の養成という教育目標を実現するために次のようなカリキュラムを編成し、教育を行っています。
1.「特殊研究科目」「演習科目」を設置し、特殊研究科目では、より高度な専門知識を得るための講義により研究の深化を行い、演習科目では博士論文の作成を目指した指導を行い、これらを通して、本学の学習に必要な自立した研究者としての高度な研究能力と識見の修得を可能にする。
2.「特殊研究科目」では、認知心理学・発達心理学・教育心理学・臨床心理学に関するテーマを発展させ、人間のここ

ろのメカニズムとその応用的な対人援助技術について、より高度に科学的に考究していく。
3.「演習科目」では、入学後に主・副指導教員を決め、博士論文作成に至る過程を一貫した指導体制で行う。研究テーマに沿った文献発表を繰り返し、討論を重ねることにより、研究計画の立案へと導く。さらに、研究計画に沿ってデータの収集と整理を行い、演習での発表・討論により研究の深化と発展を図りながら、第一次審査に備える。第一次審査に合格すれば、博士論文作成に取りかかり、必要に応じて追加のデータ収集を行い、本審査および最終試験に備える。

3. 学位授与方針（ディプロマポリシー）

【人間文化研究科 応用英語専攻】

人間文化研究科応用英語専攻では、「グローバル化社会で求められる高い英語力と高度な専門性を要する職業に就くために必要な能力の育成」という教育目標を達成し、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。
1．英語力：自身の専門領域における研究・教育・実践活動を国際社会において英語で遂行する能力
2．教養：英語圏文学・文化、言語としての英語、言語（異文化間）コミュニケーション等に関する幅広い知識と理解
3．専門性：応用英語専攻３領域（「英語圏文学・文化」「英語教育学」「言語学（英語学）・コミュニケーション学」）いずれかにおける専門性の高い研究遂行能力ならびに実践家としての能力

応用英語専攻では、上記の能力の習得を総合的に評価するために英語による修士論文執筆と口頭試問を課し、これに合格した学生に学位を授与します。

【人間文化研究科 人間文化専攻】

人間文化研究科人間文化専攻では、次のような能力や知識を備えた学生に学位を授与し、社会の発展に貢献することを期待します。
1．幅広い教養人として、世界のさまざまな文学、芸術、生活などの文化事象を的確に批評でき、国際的な視野にたって、文化事象を総合的にまた相対的に見ることのできる人材。
2．多様な研究分野が相互に行き来しながら学際的に研究を進めていく文化学にふさわしい学びの作法を身につけ、先人たちの研究を適切に承継しつつ、独創的で新たな知見を創出する能力を持った人材。
3．女子大学に設置された大学院という特質を生かした学びによって、現実生活と表象文化を重層的に関連づけた高い教養とすぐれた知的創造力を持ち、社会に貢献できる人材。
4．こうした多様な研究を修めて、国際機関や文化教育機関、企業で活動し、また専修免許を取得して教育現場で活躍できる人材。

人間文化専攻では、２年間の集大成として執筆された修士論文に対し口頭試問を実施して、修得した能力や知識について、厳格な単位認定および修士論文の評価をおこなっています。

【心理学研究科 臨床心理学専攻】

心理学研究科臨床心理学専攻は、科学的方法に基づく高度な心理学的研究が出来、同時に心理臨床的な問題を抱える人々への対人援助を行うことが出来る人材の育成という教育目標を達成し、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。
1．心理臨床に関する専門知識を備え、併せて心の発達や教育など関連領域についての広い視野を有している。
2．臨床心理的な現象を実証的・論理的・体系的に理解し実践する能力を備えている。
3．カウンセリングや心理療法に関する基礎的知識と理論を理解している。
4．心理臨床のさまざまな場面において、臨床心理学的な専門性と倫理観に基づき、実践することができる。
5．心理臨床実践においては、相談者等を信頼し適切な援助的関係をつくることができ、また相談者等の利益を優先し、

他の専門職や他機関等とも連携を取ることができる。

6．専門的理論・知見と自ら立てた問題意識や仮説を絶えず批判的に検討・消化しつつ、自分の考えをその場にふさわしい方法で表出し、また相手の考えや気持ち、立場を尊重しながら討議あるいは応答できる能力。

7．論理的な思考と豊かな感性を駆使し、客観的な視点を持ちながら一人一人の対人援助を実践するとともに、新たな援助理論や技術を創造することができる。

【心理学研究科 心理学専攻】

心理学研究科心理学専攻は、心理学に関する高度な知識を有し、社会に貢献できる自立的な研究者の育成という教育目標を達成し、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

1．心理学およびその周辺領域に関する高度な知識と学問体系を深く理解し、科学的心理学に基づく研究能力を備えている。

2．現代社会が直面するこころの問題を理解し、自らの研究について、広い視野に立った適切な課題を設定し、それを可能にする研究計画を策定する能力を身につけている。

3．研究成果を国際会議等で論議し、学術論文としてまとめ、公表する能力を身につけている。

4．専門分野における知識や成果を教授し、また心理学的専門性を生かして社会のリーダーとして活躍できる資質と能力が培われている。